



青南だより

令和6年10月号
港区立青南幼稚園
園長 石川 典子

秋分の日が過ぎ、少し涼しくなった園庭で、子どもたちは、バッタやコオロギなど秋の虫を探したり、砂遊びやごっこ遊びを楽しんだりしています。遊びを通して身体感覚を豊かにし、人やもの・こととのつながりを深めながら自己の世界を広げ、自ら発達しています。時に不安な気持ちなども遊びの中で発散し、心の安定を得ています。

子どもたちは好奇心旺盛で冒険や挑戦が大好きです。初めての経験や達成感が得られるものに対して意欲をもち、遊びの中では探索や試行錯誤が自由にできるため、評価や結果にとらわれず様々なことに挑戦し、心身を伸びやかに発達させていきます。

現在、10月の作品展に向けて、子どもたちは造形（形あるものをつくり出すこと）的な表現活動に取り組んでいます。その活動は、自発的で制限がない遊びのような経験のチャンスも多く含んでいます。造形は子どもにとって冒険です。“もの”に触発されて沸くイメージは挑戦を引き出します。“もの”が相手のため、壊れることや失敗を恐れず、繰り返し自分の力を試すことができます。



造形活動の豊かさは、子ども自身の体験や心の豊かさの表れです。園では表現の過程や子ども意欲を支え育てることを大切にしています。子どもたちが自分の手を使い諸感覚を働かせて作った作品は形に残るため、友達や先生、保護者の方に受け止められ、自信をもち、表現を楽しむ子どもに育ちます。



美しい夕日に会ったとき、私たちは心に広がる想いを表したいという気持ちになります。もしそばにいる人が、自分を受け止めてくれる人であれば、「きれいだね」と思わずつぶやき、「本当ね」と返してもらって、心が満たされるでしょう。そばにいる人に心を開くことができなければ、その想いは「表現」にならないままです。子どもの豊かな表現を育む人は、「きれいだね」と伝えたいような人です。子どもに関わる大人は心豊かな「受け手」として子どものそばにいたいものです。そしてときには、子どもの言葉にならない感情も大人が理解し受け止めることが必要です。園でもご家庭でも、日常的に心がつながる温かい関わりを大切に、自信をもって表現できる幸せな子どもを育みましょう。



青南幼稚園は、3年間の発達を見通した質の高い教育活動を推進しています。

社会全体が目まぐるしい速さで変化し、子どもたちを取り巻く生活環境も変化しています。将来を予測することが困難な時代を迎えている今、持続可能な社会の担い手となる子どもを育むために幼児期において育みたい資質・能力の三つの柱である「知識及び技能の基礎」「思考力・判断力・表現力等の基礎」「学びに向かう力、人間性等」を遊びや生活を通して一体的に育んでいます。

(港区立青南幼稚園 経営方針より)

